

キャリアパス委員会 年会企画報告

—研究者人生における様々な選択肢—

2017年の年会では、最終日に生化学会男女共同参画推進委員会と合同で例年より長めのランチョンセミナーを行いました。今年もケータイゴングによる双方向会議システムを使用し、参加者の意見を常にモニタしながら議論をいたしました。会場は例年にも増して満員御礼の大盛況でした。

今回は「研究者人生における様々な選択肢」というテーマで行いました。博士号をとってもなかなか終身雇用の職を得ることが難しい、いわゆる「ポストク問題」などの影響により、博士への進学率が激減し、また30代の研究者人口も10年前に比べて半減しています。そこでキャリアパス委員会ではこの負のスパイラルを断ち切るべく、「どの段階に不安を抱いて研究者の道を選択しないのか」について、研究者になっていく過程で遭遇するであろう「壁」を洗い出して、その解決策を若手と一緒に考えていこうという趣旨のランチョンを企画いたしました。

最初に事前資料として夏に取らせていただいたアンケート結果を私がまとめて報告しました。アンケートはこれまでの最多となる842名からの回答をいただきました。キャリアの問題にみなさんが大きな関心をお持ちなのが伺えます。アンケート結果で印象的だったのが、修士過程ですでに就職を決めている学生さんに聞いた質問で、「生活できるだけの経済的サポートがあったら博士課程に進学しましたか？」という問いに対して、なんと半数が「はい」との答えでした。つまり半数の方は経済的な理由で博士課程への進学を諦めているということになります。これはなんとかしないとイケませんね。アンケート結果はすでに文科省の担当者にお渡ししてありますので、時期を見て意見交換に伺う予定です。全てのアンケート結果は学会ホームページよりご覧になれます。

私の発表のあと、第一部、第二部に分けて、パネルディスカッションを行いました。第一部では「学生時代の選択肢」について、第二部では「卒業以降の選択肢」についての意見交換を行いました。全文記録も学会ホームページで公開しています。是非お読みください。

まず第一部の議論で重要に感じたのは、博士号を取ることのインセンティブ、つまり博士号を取ったらこんなにいいことがあるよ、についての議論です。私の個人的な意見としては、好きな研究を思いっきりできるというのが一番大きいのですが、それだけでは多様な学生が大学院に進む現在では弱いですね。パネリストからは、博士とそれ以外のキャリアでその後の収入を比較すると、

博士号取得の方がやはり高いというデータも示されました。欧米では官僚や企業の役員クラスは学位を持っていることが普通ですので、日本も徐々にそうになっていくという期待があります。また、製薬企業では博士の採用について積極的になっているという、うれしい現状も紹介されました。実際に多くの企業で研究職を中心に博士の採用を増やしています。

博士課程学生の経済支援についても、意見の交換がなされました。実はアンケート結果から4割くらいの博士課程の学生は、TAやRAなどの賃金としてある程度の給与をもらっています（DCは除く）。ただ研究室間で額にかなりの差があり、その実態は明るみに出しておらず、修士や学部学生にはあまり知られていません。できれば、統一した額を支給し、その情報を公表すれば、学生の進路選択にポジティブな影響があると期待されます。

第二部では、学位取得後の就活やライフイベントとの関わり、研究者としての「壁」について意見の交換がなされました。若手のライフイベントと仕事のバランスをどう取るかは難しい問題ですが、これは研究者社会だけの問題でもありません。かえって大学の研究者は、パートナーが同じ職場だったり、時間の融通がつけやすいなど、ライフイベントをこなすための有利な点もあるという意見がありました。育児や介護は、後回しにしたり、先送りできるものではありませんので、ライフイベントが優先的に行われるのは当然だと思います。もちろん実際には難しいことも多いのですが、研究者のコミュニティーが見本となり、最善の解決策を提示できれば素晴らしいですね。手始めにライフイベントが比較的集中する30歳代に限った公募などの年齢制限は緩和あるいは撤廃してもらいたいです。また若い研究者に多い任期制のポジションについても、研究者人口が減少傾向にある中で、その良し悪しを総括する時期に来ていると思います。

今回は議論できませんでしたが、PIや管理職の方の最大の「壁」は「研究費の確保でした」。PIや管理職の方の下には多くの若手がおりますので、若手育成の観点からも研究費の安定的な確保は重要です。機会がありましたらこの問題も取り上げていきたいと思います。

本委員会では今後も引き続き若手を応援していきたいと考えております。

どうぞお力をお貸してください。

キャリアパス委員会
委員長 小林 武彦

【研究者人生における様々な選択肢】

- 日 時：2017年12月9日(土) 11:45～13:15
- 会 場：神戸ポートピアホテル 本館地下1階 和楽（第4会場）
- 司 会：第一部 澤崎 達也（日本生化学会男女共同参画推進委員／愛媛大）
 第二部 斉藤 典子（日本分子生物学会キャリアパス委員／がん研）

〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

【問1】 あなたの年齢は？

① 24歳以下	49	27.7%
② 25～29歳	34	19.2%
③ 30～34歳	22	12.4%
④ 35～39歳	15	8.5%
⑤ 40～49歳	22	12.4%
⑥ 50～59歳	15	8.5%
⑦ 60歳以上	8	4.5%
※ 未記入	12	6.8%
計	177	100.0%

【問2】 あなたの身分・職階は？

① 学部学生	26	14.7%
② 大学院生（修士）	25	14.1%
③ 大学院生（博士）	27	15.3%
④ ポスドク	12	6.8%
⑤ 大学教員（助教・講師・准教授）	33	18.6%
⑥ 大学教員（教授）	13	7.3%
⑦ 研究員	7	4.0%
⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上	7	4.0%
⑨ 企業	12	6.8%
⑩ その他（医師・テクニシャン・URA）	3	1.7%
※ 未記入	12	6.8%
計	177	100.0%

【問3】 このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）

① 学会ホームページ	22	11.9%
② 大会ホームページ	32	17.3%
③ 会報	2	1.1%
④ プログラム集	86	46.5%
⑤ ポスター	13	7.0%
⑥ 会場内の広告	16	8.6%
⑦ フェイスブック	0	0.0%
⑧ クチコミ	8	4.3%
⑨ その他	6	3.2%
計	185	100.0%

【問4】 このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？

① ランチョン形式でよかった	161	91.0%
② ランチョン以外の時間帯がよかった	2	1.1%
※ 未記入	14	7.9%
計	177	100.0%

【問5】 前半の講演はいかがでしたか？

① とても面白かった	69	39.0%
② まあまあ面白かった	65	36.7%
③ 普通	17	9.6%
④ あまり面白くなかった	5	2.8%
⑤ つまらなかった	2	1.1%
※ 未記入	19	10.7%
計	177	100.0%

【問6】 後半のディスカッションはいかがでしたか？

① とても面白かった	57	32.2%
② まあまあ面白かった	54	30.5%
③ 普通	20	11.3%
④ あまり面白くなかった	2	1.1%
⑤ つまらなかった	2	1.1%
※ 未記入	42	23.7%
計	177	100.0%

【問7】 今後このような試み続けるべきだと思いますか？

① 是非続けるべき	133	75.1%
② 続けるべきだが方法を変えた方がよい	17	9.6%
③ やめた方がよい	1	0.6%
④ わからない	10	5.6%
※ 未記入	16	9.0%
計	177	100.0%

【問8】 このセッションに関する感想をお聞かせください。

- ・1部に学生中心、2部に若手研究者のライフイベントについて、構成が良かった。
- ・とても参考になった。これからのキャリアを考える上で。
- ・キャリアを考える上で参考になった。
- ・自分の進路について考える良いきっかけになった。
- ・将来のキャリア等を考え、知るきっかけになって面白かったです。
- ・博士に進学しようか迷っているの、非常に参考になりました。
- ・新しい試みで大変面白かった
- ・おもしろいきかくだなと思いました。来てよかったです。
- ・すごく参考になりました。
- ・大変参考になった
- ・とても良かったです
- ・多角的かつ率直な意見が出ておもしろかった。
- ・非常に興味深かったです。特に、異なる立場の方の実情をコメントできけたのが良かったです。
- ・色々な人の本音が共有できて良かった。研究に関わる人達が考えることは似ているのだなと実感した。
- ・パネリストの方もざっくばらんにお話し頂き、よかった。
- ・周りの人がどんなことを考えているのかいるのかわかって良かった。
- ・色々な若い人の不安と年上の意見を聞いてよかった。
- ・お弁当にひかれて参加しましたが、大変有用なお話しでした。ありがとうございました。
- ・お弁当ごちそうさまでした。もっと刺激的な意見がたくさん聞きたかった。
- ・とても自由な議論であったため、尚更ためになったと思います。
- ・進路について考えるきっかけになった。
- ・大学院以降をどうするか、少しでも指針が得られると良いかと思って参加したが、予想以上に様々な考えが得られ、大変面白かったです。
- ・ドクターの学生は交流が少ない（授業がない）。悩みを共有しにくいのも、ドクターの苦しさを増している？今回の会は「自分だけではない」と思えて安心できた。
- ・将来について知れて良かった。
- ・思った以上におもしろかったです。初めて分生に来たのですが、このようなセミナーも初めてで、分生はいい学会だと思いました。ダイバーシティを進めると、良い組織になると聞いたことがあるので、このような方向でも分生のコミュニティーがよりよく発展すればとねがっています。
- ・みんなが知りたいことをみんなで見ていける点がとてもいいと思う。ConBioならではの企画だと感じた。

- ・会場の生の声が聞けるのはよかった。しかし、パネルの先生方に企業側からの人がいれば、もっと説得力のあるディスカッションになったと思う。企業からの目線を話すとき、想像にしか聞こえない。また、ドクターになることのデメリットについてもきちんと討論すべきだと思う。「確かに、こういう苦労はある。」という感じで、パネリストの意見にキラッと光るものがなかった。
- ・毎年聴くことで、時代の動向や同世代の考えていることを広く知ることができて良い。また、企業の人でもパネラーでいて、よかった。
- ・パネラーの年齢層が狭いように思う。↑↓をはかる。
- ・パネリストが成功者ばかりにみえる。しかたないとは思いますが。。
- ・登壇者は確かに成功者ばかりだと中立性にかける。
- ・パネリストが、運がいい人が多すぎ。
- ・パネリストの大半がPIで多様性が少ない。
- ・前の見えてる人をパネリストにしても面白くない。見えないもの同士で意見をたたかわせるべき。
- ・パネリストに失敗者席を作ってほしい
- ・学生のパネルディスカッションする人を入れてほしい。
- ・学生・院生をパネリストにしても良いのでは。
- ・企業の方、修士卒の人々の意見も受け入れるべきである。修士卒の企業の方々もパネルディスカッションに入れるべきである。
- ・参加型で答えがリアルタイムで見られるのがおもしろかった。主催者の方々もその結果をみてコメントしてくださるので、主催者の方の生の声をきくことができた気がした。
- ・参加者の生の声が聞いて面白い。皆、同じようなことで悩んでいるのだな、と。
- ・リアルタイムで会場の意見が見れて、自分の意見が言えて良かった。
- ・リアルタイムでコメントでき、議論が活性化してよかった
- ・コメントがリアルタイムで流れるのが新鮮で良い。
- ・リアルタイムかつ匿名でディスカッションに参加できる形はおもしろいと思いました。
- ・リアルタイムで色々な人の意見が聞いて良かった。面白かった。
- ・コメントできる所など、とてもよかった。
- ・本音が思った以上に出てくるのに驚きました。iPhoneを使った試みは素晴らしいと思います。
- ・参加できるタイプで面白かった。
- ・参加型、議題がおもしろかったです。
- ・interactive は、やはり！メリットもある。
- ・匿名による意見を出せる点が良かった。
- ・ConBio アプリからも参加できるようにした方がよい。参加のページのアクセスがかりにくい（そのURLをgoogleなどで検索してもでてこない）→ウェブページからアクセス出来るようにした方がよい。
- ・とてもよいセッションでした。ただ、前の画面がみづらいので、後方にもスクリーンを増やすか、スマートフォンでリアルタイムにコメントを追えるシステムがあると良いかと思います。
- ・コメントが読めないのもスマホで手で読むようにしてほしい。
- ・コメントを見ることができるようにしてほしい
- ・コメントスライドが細かすぎて、後ろの方から読めませんでした。
- ・全てのコメント画面を大きく示すようにすると見やすく良いと思った。
- ・画面の文字が小さい。
- ・アンケート結果のパネルが見にくい。
- ・アンケート・スライドが見えにくい。
- ・スライドが見えにくかった。
- ・モニターの文字が見えなかったのも、サブモニターを設置していただき良かったです。
- ・後列からでは表示スライドの字が小さく見えにくく思う。全体の真ん中、後方にもプロジェクターの配置があると、さらに活発な議論が行われると考える。
- ・スクリーンが小さく、後ろの方では見えません
- ・もう少し、画面を大きい会場を使ってほしいです。
- ・パネリストが後ろからほとんど見えない。
- ・ケータイを敢えて持たないことにしているのでパソコンも使えると良かった。
- ・サイトへのアクセスの仕方がよくわからなかった。
- ・Keitai Gong とか面白いと思いますが、時間が短いせいか、議論ありきという印象をもちました。
- ・アンケートを取るのはいいが、アウトプットが曖昧。芸能人がパーソナリティをつとめるラジオみたいで、フロアからの意見に対する答えがいい時もあるが、あまり有用ではなかった。
- ・質問が「どちらともとれる」聞き方のものが多かった。例えば、アカデミア研究員と企業研究員は少なくとも分けて書いて頂きたかったです。
- ・アンケートの設定で、誘導されているように感じるものがありました。（学費補助は明示されるべきか、など。）リアルタイムで様々な意見がわかり、新鮮でした。
- ・スピーカーの方々はコメントを視覚的に見えている前提ではしゃった話し方をされる方が多かったのですが、正直、何をおっしゃっているのかわからない場合が多々あったと思います。
- ・各部で、どなたも一人の方の経験を5～10分ぐらいで、まず具体的に話してもらうのはどうでしょう。簡単な解答がない難しい問題ばかりなので、短し浅いコメントばかりでは参加者の頭の中に残るものが少ないのではないのでしょうか？別のセッションではなされた企業の方（誰も出席してなかった！？）に、もう一回でもいいから短く話してどうか。
- ・深い所まで議論が出来ていない。（質問に問題がある？）
- ・議論が深まっていなかった。博士が就職に有利って本当？
- ・問題が大きくて時間が足りていないように思いました。ネット化などで討論の枠を枠を広くとるべきでは
- ・おもしろかったが、少しまとまりがない。トピックをもう少ししぼるべき。
- ・修士と博士で悩みがちがうから（進路の）分けてほしい。前半の話は（博士）進学した者にとっては不要。
- ・試みは良いが、やり方を変えた方がいい。進行の行き当たりばったり感があります。
- ・セミナー全体を通じて、海外に目を向けてキャリアを考える人が少ないのだと感じた。
- ・会場の大勢の人がどう思っているのか意識を共有できたのは良かったが、「～してほしい」「～すべき」というだけで自分の中で「参考になった」と思えたものがなかった。

- ・研究者が抱える問題や現状をリアルタイムで知ることができてよかった。なんだか暗い気分になりましたが。。
- ・公募の公平・透明性において、誰も答えてがらなかった。どうしてですか？
- ・博士進学を考えていましたが、さまざまリスクや不安な点があると感じました。
- ・将来についてより考えさせられ、不安になった
- ・時間の限られた中で、多数の聴衆もいるため、どうしても問題の表層にしか触れられていない印象があり、個人の問題解決につなげることが難しいのではないかと思います。
- ・まだ自分が学部生だからというのも話のすべてにあるかもしれないが、あまり具体的なイメージができなかった。
- ・むなし
- ・研究を続ける人にしっかりしたサポートができるものになってほしい
- ・学生の時の金銭的援助も博士の学生を増やすのに大事かもしれないが、その後のキャリアの困難さを学生がどれだけ分かった上で博士の進路を考えているのか疑問
- ・毎年、良い取り組みと感じて聴講に来ているが、議論するだけで、世の中が変わらないことがもどかしく感じた。
- ・進学、就職について考えたことのある学生はこういう話って自発的に聞いてると思われれます。ただ、収入などの生々しい話は大学で教員に聞けないので、取り上げてくれるとよりよかった。
- ・博士課程への進学者を増やしたい前提で話を進めているが、そもそも増やすべきなのか疑問を感じる。
- ・雇用は最も議論すべき問題だと痛感した
- ・暗い未来に向き合う企画は大変。
- ・問題に取り組んでますよ、という実績作りのセッション。本気で問題解決に取り組むつもりがないのなら、こんなむなしセッションはやめた方がよい。勝ち組の自己満足セッション。象牙の塔。負け組の話を開け。
- ・お花畑を続けるなら、やめた方がいい
- ・ぜひ、ここでの意見を政府に伝えてください！！
- ・今回明らかになった問題点を学会として声明を出す、政府に働きかける等してほしい。
- ・セッションの結果を学会としてとりまとめ、当局や一般の人にも受け入れられる（研究者の利害だけでない）説明をすべき。
- ・研究者は一部の成功者を除いて、皆、不安。本当にこの環境を変えていかなければならないので、セミナーを聞くのはいいが、本気で政府に訴えかけてほしい。真面目に訴えて、絶対に変えてほしい。切実です。生ぬるい覚悟ではダメです。こういう時代、己のみを信じて頑張りという答えは、このセミナーを開く意味そのものを否定していると思います。「今の日本の科学者の現状を変えたい」という意気込みが感じられない。
- ・国家予算を研究にもっとふるための、研究者自身の努力はどのくらいされるのか？もっと、発信を皆でしたほうが良いのでは。
- ・博士課程在学中の学費と生活費を助成し、博士号取得後の職を用意（アカデミックの無期雇用の研究員と企業への就職先）すれば博士課程進学者が増えることが予想される。
- ・アカデミア or 企業以外の選択（支援者、URA、省庁など）があることも伝えていただきたい
- ・現在、大学助教ですが、公務員（研究者）などにも年齢制限でアプライできないので、国は解決すべき。国の政策で博士増えたはずなのに職がないのはおかしい。
- ・文科省の役人（上級）や野依先生など国への意見として直に伝えられるようにしてほしい。50代以上は任期付きはよいidea。
- ・自分は博士への進学を決めていますが、迷っていたときにこのセミナーをうけたかったなと思います。同じように迷っている人の背中を押すセミナーだったと思います。
- ・今後、このような機会がありましたら、是非参加したいと思います。

【問9】 来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあればお教えてください。

- ・研究者のキャリアパス、アカデミア編
- ・同じく、キャリアについて今回は成功した方ばかりであるが、逆に他の道に行った方の話など
- ・今年は、現状の把握が実際の試みだったと思います。来年以降はどうやって問題を解消するかをフォーカスして頂けると嬉しいです。
- ・キャリアパスのテーマでは大学院生や若手を対象にしたものが多いが、今回のアンケート結果にもあったように、必ずしもキャリアを考えるのは若手のみではないため、より広い年代を対象とするテーマも設定して頂きたいです。
- ・キャリア・進路について
- ・大学研究者だけでなく、もっと企業の人やポスドクなども加えて、人生における選択肢の中で何故それを選んだのかを聞きたいです。
- ・企業での研究
- ・実際に企業の人事担当者と呼び、博士号取得者に何を期待しているのか話してもらおう
- ・企業の人を持つ「Ph. D. 取得者像」とは？一般（世間）の人が持つ「Ph. D. 取得者像」とは？27歳まで学生をやることに対して驚かれる。つらい。
- ・企業経営者の人から見て、Ph.D. をもっている人を雇うことに、どのようなPro/Conがあると考えているか。Ph.D. をとった人が企業に行くとPh.D. は有利と言っても、全員にとってはそうは限らない。
- ・ベンチャービジネスが雇用先にならないか
- ・アカデミア or 企業以外の選択（支援者、URA、省庁など）があることも伝えていただきたい
- ・大学では教育+研究に加えて、事務員がすべき仕事を教員に回しており、そのため、教員のActivityが下がる。この件についても考えて欲しい。
- ・博士の種類（工学、理学など）の違いによる就職の違いなども知れたらおもしろいと思いました。
- ・具体的な博士課程進学におけるメリット
- ・ポスドク、任期教員のキャリアについて。任期なしポストの獲得について
- ・研究業界は社会の中でどのような立場を占めるのか。もし社会の中で有用な立場にあるのなら、もっと予算が投入されるのではないか。業界外の人が研究業界をどう位置づけているのか聞いてみたい。
- ・人数が多い40代に関して、アカデミア、政府はどう考えているのか（任期付が多い、キャリア形成には遅すぎて、etc.）学会でもそろそろ真剣に考え始めてほしいです。このままだと、豊富な経験を持った人材がごっそり抜けることになります。
- ・産官学連携の在り方
- ・研究費配分のあり方、人事のあり方
- ・「30年先の研究者像」。例えば、自分の子供が研究者になったとしたら、どんな働き方をしたいか。
- ・外部の研究室に行くメリット・デメリット

- ・ 研究留学
- ・ 日本と海外の博士の地位について比較
- ・ 海外での状況はどうか。海外の学生も同じような状況を抱えているのか、就職のシステムの違い、ラボの違いなど知りたい。
- ・ 若手 vs シニアのパネルディスカッション
- ・ ラボ内の人間関係、ラボの実態（博士課程学生の数など）
- ・ ライフイベントとキャリア 究極の選択をせられた時に？（どうするか、どう判断するか興味あり）
- ・ 研究者としてのワークバランスを考えると
- ・ 研究者のワークライフバランス
- ・ 女性研究者のワークライフバランス
- ・ 女性としてのライフイベントの対処法
- ・ 女性のキャリアについて。結婚（年齢、出会いの時期）、出産、育児の観点で、企業とアカデミアを比べたときの違い。
- ・ 女性のキャリアパスは男性よりも厳しいのでしょうか？ 明るい話も聞きたい。

【問 10】 本大会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。

- ・ オーガナイザー、シンポジウム登壇者で女性の比率が少ない。教授の数も少ない。パネリストは大学教員ばかりだが、キャリアパスの多様性を目指すシンポでは？
- ・ 発表関係者全体での男女比が全会員の男女比と同様ということはいいことだと思った。でも、もとの比率が低い以上、オーガナイザーやスピーカーの比率を上げるのは簡単なことではないと感じた。女性“だから”いれる、というのもちがうと思うし...。（私は女性です。）それでも努力はつづけていかなければならないと思った。
- ・ 女性発表者も結構多い印象だったが、数字的には低くて意外だった
- ・ Hard working があたりまえの業界なので、このような結果になるのでは。男女共同企画は女性にゲタをはかせるのではなく、男性も育児、家事に参加できるようにすることも推進した方がいい。PI クラスの男性の多くは時間のほとんどを研究に費やしているのでは？
- ・ 「ドクターに行くと、結婚がおくれる」という女の人はたくさんいる。ドクターに行っても結婚・出産できる！と思えば、アカデミア（博士課程）に行く女の人がふえるのでは？
- ・ キャリア形成には年数がかかる。特にアカデミアはその期間がながいように思う。女性の活躍を推進し始め、その結果が出るまでのタイムラグがあることを忘れられているように感じることもしばしば。
- ・ 若手女性、もっと頑張らないといけませんね。。。
- ・ 博士号取得者のポスト（職）が一番の問題。アメリカみたく、学位を取った人ほど優遇されなければならない。
- ・ 女性がもっと自由に活躍できる社会になってほしい。
- ・ 今の日本の社会を写していると思う。社会が変わらなければ学会も変わらないのではないかな。
- ・ 機会の平等は守られるべきだと思いました。
- ・ 興味深かった。自分自身の無意識下にあるバイアスについて考えるきっかけになった。
- ・ 素晴らしい。学会全体でリアルタイムに統計出してくれるのはいいこと。他の学会は終了後に出してくる。
- ・ 大変参考になりました
- ・ 非常によい資料である。
- ・ 良い
- ・ 使用するグラフが適切でない。比較している項目がわかりづらい。
- ・ グラフの作り方がイマイチです。必要なことが伝わりません。
- ・ 折れ線グラフは適切でない。棒グラフにすべき。
- ・ 分析が表層的。
- ・ 特になし

【問 11】 その他、ご自由にどうぞ。

- ・ PD から企業に進みました
- ・ 進学は学費的にも厳しい。親とも話し合った上で決めたことなので、帰ることはできない。
- ・ 長い時間を取るためランチョン以外の時間帯がよかった
- ・ 時間をもっと長くっていい。

〈ケータイアナライズシステム（第一部）〉

〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

練習設問：皆さんの属性について教えてください。

・ 学部学生、大学院生	83	46.4%
・ ポスドク、助教、講師、研究員等の非 PI 職	33	18.4%
・ 准教授、主任研究員等の junior PI 職（テニュアトラック）	8	4.5%
・ 教授等の PI 職（テニュア）	12	6.7%
・ 企業	17	9.5%
※未入力	26	14.5%
	計 179	100.0%

設問 1：どうすれば、博士課程への進学者が増えると思いますか？

・経済支援	65	41.1%
・多様な博士取得者との出会い・アドバイス	25	15.8%
・博士号がキャリアに有利であることを認識する	66	41.8%
・修了要件の明確化	1	0.6%
・その他	1	0.6%
計	158	100.0%

設問 2-1：(学生の方のみ回答してください) 研究室のPIのようになりたいですか？

・なりたい	49	51.0%
・なりたくない	47	49.0%
計	96	100.0%

設問 2-2：(学生の方のみ回答してください) 博士課程進学または取得後の進路を考える上で、気軽に話し合える博士
取得者(ロールモデル)はいますか？

・大学関係者および大学関係者以外にいる	21	21.4%
・大学関係者にいる	34	34.7%
・いない	43	43.9%
計	98	100.0%

設問 3：大学院への進学にあたって現在の研究室を選択した理由は？

・学部と同じ研究室だから	44	31.0%
・研究内容	61	43.0%
・学費(生活費)	2	1.4%
・大学院の知名度	6	4.2%
・研究環境	29	20.4%
計	142	100.0%

設問 4：大学院で所属研究室は変わるべき(変わるべきだった)と思いますか？

・はい	37	24.2%
・いいえ	42	27.5%
・どちらとも言えない	74	48.4%
計	153	100.0%

設問 5：博士課程の学費(生活費)の補助は明示されるべきと思いますか？

・はい	152	97.4%
・いいえ	4	2.6%
計	156	100.0%

設問 6：博士号取得者の所得は、修士や学士と比べてどう思いますか？

・高いと思う	35	23.6%
・変わらない	62	41.9%
・低いと思う	51	34.5%
計	148	100.0%

設問 7-1：(学生の方のみ回答してください) 第一部の議論を聞いて、進路変更を考えましたか？

・ はい	12	14.1%
・ いいえ	73	85.9%
	計 85	100.0%

設問 7-2：(設問 7-1 で「はい」の方のみ回答してください) その内容は？

・ 修士→博士	1	6.7%
・ アカデミア→企業	12	80.0%
・ その他	2	13.3%
	計 15	100.0%

コメント一覧 (第一部)

No	ハンドルネーム	コ メ ン ト
1	TS	色々な意見を聞くことが出来て、とても参考になりました。
2	ごちそうさまでした。	学会 4 日目で、初めて弁当食べられました。
3	Yuki.N	返済不要ではなくていいので、利子のない奨学金が欲しいです。(B4)
4	みや	そもそも博士号はキャリアに有利なのかわかりません。でも、どうしても研究がしたかったので進学しました。
5	SM	例えば、企業にとって博士を修了した学生をどのようなポジションにつけたいのでしょうか
6	25 歳の修士学生	「博士課程に進んだ後、苦労した」という話ばかり聞いているとどうしても進学をためらいます。
7	お菓	ドクターコースに行くと結婚が遅れそう。
8	た	博士号取るまで長いと思う
9	ポスドクです	一般的に、研究者は趣味でやってて貧乏というイメージが強過ぎ。実際そうなんですけども
10	33	修士の時からリサーチアシスタントに採用するなど早期から研究に専念できる環境だとよかった。
11	D	国立大でリストラを可能にして、企業と同じようなスタンスでいくべきだと感じる
12	zxc	そこまで有利なんだろうか？実感が無い。学生にあまり胸を張って言えない。
13	のりお	博士課程の学生が、現状では無料の労働力あつかいなのは問題だとも思います。
14	Yuki.N	ボスの世代とは色々違います参考になりません。
15	KS	PI は反面教師として参考にしています。
16	N	有利であることを認識するという言い方だと実際のところ有用であるかがわからない。
17	普通のひと	医師免許や他の国家資格に比べると、博士号は費用対効果が低く、就職や収入に有利ではない。
18	M1	中間管理職の助教の先生の雑用が多そう…
19	teat	助教授は徹夜が当たり前です、人間的生活を送れない。
20	ks	工学や薬学ならともかく、基礎研究で博士号を取得して就職できるのか、よくわからないです
21	ひろ	経済的な問題は博士課程進学に大きく影響するが、博士号取得してもメリットが不透明で、悪い言い方をすると、教授に騙されて博士課程進学みたくになっている風潮も大きい。ただ、しっかりビジョンを自分で持って進学する人には無関係な話。
22	修士 2 年	博士号取るまでが長すぎる
23	25 歳の修士学生	他に移ってうまくいかなかったら、と思うと安定したいです。
24	B4	研究職に限らずどんな職業でもそれが好きじゃないと続けられないかと思いますが、研究者は理系学生の多くが研究に一度は関わるのにたいしてそのハードルが高めなのではないでしょうか。
25	ポスドク	PI が研究費獲得などなど、サイエンス以外のことで忙しそうすぎる。同じようになりたいかという微妙。
26	みや	進学の時、博士の大変さを先生や先輩からかなり強調された。
27	D	PI が自分を過大評価しすぎる節がある

No	ハンドルネーム	コメント
28	大学院生（博士課程でも修士課程でも）の所得について	同じ研究科内でも所得の違いに大きな差があることなどは大きな問題のような気がします
29	D1	学部の頃から積み上がった奨学金を考えると、博士取得後の返還しながらの生活が恐ろしい。
30	一般学部生	学費の面で外部か内部かの大学院の進学に悩んでる
31	M1 です	博士とれなかった場合がとても不安です
32	mi	学部の研究室は人間関係で選んで、院の研究室は研究内容で選ぶと良いと思います。(M2)
33	oh	若いうちはいろんなところで経験を積みたい
34	Yuki.N	研究するにあたって、日本にいるより海外に逃げた方が良いのでしょうか？
35	SM	学部でそこまで長く研究できていないのに、院から別の所に移ってもと思いますが…腰を据えて勉強した方が良いのではないかと思います。
36	あ	学振を取るためにも学部の研究も生かしたかったという理由もあった。
37	研究室選び	一箇所にいた方が業績を作りやすい気がします。経験を多くのところで積むのとはかりにかけて迷いました。
38	みや	学費や奨学金のことを考えると胃が痛い。
39	YH	人材育成というなら貧乏学生から学費を取らないでほしい。
40	変だな	大学院変更は、ほんとにステップアップですか？
41	D1	もし博士課程を修了できなかったら、どうなるんだろうという恐怖。20代後半の「中退者」って就職できるんでしょうか？
42	MO	やっぱりビジョンは長期的でないといけないし、多くのロールモデルを見ることが必要。若い人が昔と同じ苦勞をすることは、問題が解決されていないことを示すのではないかな？
43	Mikuru	今日の学会への参加費も、同じ大学内ですら出る研究室と出ない研究室がありますね。
44	修士課程一年	どうせ研究をやるならいい環境でやりたいと思ったので、研究室を変えてよかったと思います
45	みや	変わるべきかどうか、なんて人それぞれだし結果論。
46	33	1つのことに何年もかけて取り組むことも大事だと思います。
47	TU	大学や企業の研究者としてのキャリアを選択しなかった場合、どのようなキャリアがあるのかを具体的なロールモデルを示してあげられたら、若い世代にとっては多少の安心感をもたらすように思います。
48	薬学ドクター	ドクターやマスターの1年生はまだラボを変えるべきだったかどうか分からないのでは？
49	ポストク大学院ラボ移動	変わるべき。ラボをうつるとしんどいこともあるが研究内容だけでなく、いろんなことを学べる。いろんな視点が持てると思う。
50	菌	母校以外の選択肢が全く見えなかった。もっと自分が動けばよかったかも。
51	後ろの方	コメントが見えないのでスマホでも見られるようにしてほしい
52	Yuki.N	学会の参加費用くらい出してくれる研究室に入りたいです。
53	あ	金銭的支援の手厚い（学振等がとりやすい）ラボに移った方がよかった
54	たにし	調べられるわけだし、お金ももらえるラボにいけばいいのでは？
55	.	他の大学に移るつもりでいたが、PIに反対されました。今となってはチャレンジするべきだった。
56	****	研究室を学部から変えると、研究に費やす時間の点からDC取得に不利になってしまうように感じました。
57	22歳 M1	世の中に博士の需要はあるのでしょうか？
58	tk	研究の面白さもわからない学部生の時に、博士進学も含めて進学先を考えるのは厳しい。
59	Epige	設問4 修士1年 進学以前の研究室選びで失敗してる人が多い気がする
60	進学に悩む学生	博士後期まで進むモチベーションがあれば外部に行きたい！修士課程で就職するなら内部のがいいのか、
61	Enola	学部時代は部屋の定員のせいで100%自分がやりたいことができるわけではない。その点、修士はある程度自分のやりたいことができるので変えて良かったと思う。

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
62	Yuki.N	別の研究室に進むとして、アカデミアでの人間関係構築の面で、若い教授についての方が良いのでしょうか？
63	学部4年	修士の期間は2年しかないので、新しい研究室に移ったら新しい環境に慣れてるうちに修士のほとんどが終わってまともな研究ができない気がした
64	K	大学院進学を考えるなら学部での研究を引き継いだ方がよいといわれました。ですが、自分のやりたい研究を考え、ガラリと研究室を変えてよかったですと思っています。
65	ひ	学部によっては（医歯？）卒論研究をしないからラボのことがあんまりわからない
66	修士1年	研究はやっていきたいが、自分の専門を決めるのが難しい。
67	b4	研究しているとアルバイトができないです
68	teat	お金は重要
69	薬学ドクター	補助を明示するってどういう意味ですかね
70	みや	補助を明示することで、学生は安心して進学できるのでは？
71	25歳の修士学生	明示されたら、支援のない研究室は選択肢からまず外れますね。
72	来年修士	博士キャリアの不安イメージがある以上、それまでの経済支援を親にお願いするのは子供としてはやりにく。そうなるに経済支援の有無があるか否かは大きな要素。
73	.	研究をしないおじさんをきって、院生にお金をまわすスキームをつくってほしい
74	唐澤 @D1	就職した友達と久々に会うと収入が違いすぎて非常に悲しい気持ちになります。
75	ks	博士課程の先輩が、他の同世代は稼いでいるのに自分は稼いでいないという事実が辛い、親に申し訳ないと言った
76	KS	TA,RAの額ではとても足りないので、アルバイトをせざるを得ない。
77	修士課程一年	研究費で差が少し出してしまうのは仕方ないかもしれませんが、全く収入のない学生と、生活費としては充分すぎるほどのお金をもらっている学生が存在するのは良くないと思います。学校や先生方の方である程度一律に揃えることはできないのでしょうか？
78	ki	企業への就職では初任給がわかる 博士課程は分からない
79	TH	産総研などで修士のパーマネント採用をした後に論文博士を取らせるシステムが増えていくと、今後ますます博士進学者は減る気がしています。
80	Yuki.N	自給的には圧倒的に低い
81	みや	DC含め、研究費獲得のノウハウをPIが持っているかどうか、というのも大事。…それを外から知るのも難しいですが。
82	た	ポスドクっていくらもらえるの？
83	薬学ドクター	うちのラボの先生からポスドクの待遇の話を知ると、少なくとも薬剤師と働いていた方が稼げるのかなとは思っています
84	ks	生涯年収は修士卒が1番良いと聞いたことがある
85	B4	日本で就職するなら博士取ってもあんまり意味がないんじゃないかと思う
86	ポスドク	ポスドクで非常勤雇用だと時給はよくても退職金がないからトータルとして低いような
87	N	大手でかつ収益性の高い分野の企業であれば博士取得者の年収は高くなるのではないかな。
88	M2	分野によっても博士取得者の収入に差があると思う。特に進化や生態は低い印象を受ける
89	25歳の修士学生	生涯年収としてはどれくらい上になるんですか？
90	hs	生涯年収として考えると博士が有利とは言えないように思う。優秀であれば別だが。
91	.	どこかの国立大が1度潰れないと、なにも変わらないと思う。
92	学部生	博士号取得によって変わるの、年収というより、自分の就きたい職（研究職等）に就けるかどうかのイメージが強い
93	単純に	自分のポスはいくらほどの報酬で働いてるのだろう…
94	*	博士課程の3年間の努力と奨学金のことを考えると、就職後の給料は修士卒と差をつけてもらえないとやってられない
95	MO	高齢者のリカレント教育に何千億も費やすのではなく、大学院教育に注いで欲しい。

No	ハンドルネーム	コメント
96	ひろ	もちろん会社にはよるが、給料の絶対額は高い。ただ、定年まで三年修士より短いことを考えると、不利。しかし、個人が出世するかどうかが最終的には効いてくる。統計的には博士号取得者の方が出世率は高いらしい。
97	た	問題解決力や学ぶ姿勢を身につけるなら修士で十分。
98	N	博士に求める能力は企業による。問題発見能力もあれば専門性もある。
99	※	問題発見、解決能力って博士までに残ったからといって培われるものでもないと思います。
100	y	研究者は元々貴族の仕事だと思ってるので、PI 目指せるだけラッキーな時代だと思ってます
101	A	博士号を持っていると待遇が良い、というのは違和感がある。博士号を持っていないと出来ないことがある訳ではないので、能力と業績によって待遇が決まるべきであると思う。
102	M2	これくらいで変わってしまうようでは意思が弱い
103	進路	研究職に限らずどんな職業でもそれが好きじゃないと続けられないかと思いますが、研究者は理系学生の多くが研究に一度は関わるのにたいしてそのハードルが高めなのではないでしょうか。
104	TK	一概にポストドクといっても、常勤と非常勤のところがある。非常勤はボーナスが出ない。博士課程だけでなく、ポストドクでもかなり待遇が違うので、改善してもらいたい。
105	KS	この質問、いいですね！
106	長門有希	最初からドクター行こうと思っていたが、少し気が楽になった。
107	Epige: 修士1年	所得以外にも研究室内でドロップアウトしてしまう不安も進学を考える要素だと思う
108	よし	前向きに！前へ前へ
109	薬学ドクター	アカデミックを目指してはいますが、なかなか未来は暗いと思っています。
110	.	今後のこと考えると、アカデミアに固執してはまったくポートフォリオマネジメントできないのではないのでしょうか。
111	リーディング大学院	文科省でリーディング大学院というお金をもらいながら博士をとって産官学で広く活躍するというプログラムもあります。ロールモデルが増えるといいなと思いました
112	b4	実際のところ就職に有利なんでしょうか
113	1/10	D 進するって言ったら親に就職しろと殴られそうだし、D 進しないとこっちの世界に来いとボスに殴られそう
114	みや	どんな道を選んでも、楽な道はないということですね。
115	Enola	将来の社会を支えるアカデミックや若い世代を蔑ろにする政府の戦略に疑問。
116	修士学生	博士課程を選ぶと一生研究を続けていかなくてはいけないような雰囲気がある。たとえば、博士課程をとった時アカデミアや企業の研究職以外においてもメリットはあるのか、多様なロールモデルが提示されると、博士課程を選ぶハードルが下がるのではないのか。
117	修士1年	博士でなく企業にすべきだったと考えられている方はいますか。
118	t	後輩が博士進学したいと言っているが薦めていない。どのみち苦勞の多い道だ。本人が行きたいと思うなら行けばいい。
119	B1	様々な意見が聞けて参考になりました
120	KS	大学だけでなく、企業のPI 研究者のパネリストのコメントもお聞きしたかったです。
121	た	リーディング大学院や卓越大学院もあるよ！！
122	?	なぜ医学薬学のドクターが4年間なのかよく分からないんですが。
123	25歳の修士学生	学校として、奨学金以外の方法で学費の補助をできないのでしょうか？給付型奨学金のほとんどが併用不可なので、生活費の工面は貸与に頼らざるをえないのですが。
124	Yuki.N	チャレンジして失敗したら、やり直せるでしょうか？
125	?	120の意見の通り、企業の方にこの場にて欲しかったですね。
126	みや	もっと、もっと、努力ですね。毎日、精一杯。
127	k	始めから就職に役立てるつもりで博士に進んだが、アカデミアに行かせたい教授とぶつかることが増えてきた。
128	あ	研究が好きだからという理由だけでは進学を決めるのは無理 一人暮らしなので博士課程進学のためには月15～20万円の支援等が無いと生活が苦しい

No	ハンドルネーム	コメント
129	た	自分の能力を高めて、そのあと世の中をどう変えたいかが大切。その夢がない
130	普通の人	企業は修士卒で行って、途中で社会人として博士課程に入学して学位を取ることも可能。
131	企業です	アカデミアに魅力を感じて博士をとったけど、企業・研究職を選択しました。博士課程の間にいろんなロールモデルの人に会って、納得できる選択ができたと思っています。
132	FF外から失礼します	退職金のことを考えると、早く正規のポストを得ないと老後破産の可能性が高まると聞いた
133	学生	結婚速別居はありでも、子育てはさすがに厳しいと感じている。子どものことを考えると、アカデミアに行くのが怖い。

〈ケータイアナライズシステム（第二部）〉

〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

練習設問：皆さんの属性について教えてください。

・学部学生、大学院生	83	43.5%
・ポスドク、助教、講師、研究員等の非PI職	33	17.3%
・准教授、主任研究員等の junior PI 職（テニュアトラック）	8	4.2%
・教授等のPI職（テニュア）	12	6.3%
・企業	17	8.9%
※未入力	38	19.9%
計	191	100.0%

設問1：ライフイベントとキャリアどちらを優先しますか（してきましたか）？

・ライフイベント	29	21.3%
・キャリア	32	23.5%
・両方	63	46.3%
・わからない	12	8.8%
計	136	100.0%

設問2：キャリアの選択には何を第一に優先しますか？

・仕事内容	83	60.6%
・安定性	24	17.5%
・ライフイベントとの両立	28	20.4%
・その他	2	1.5%
計	137	100.0%

設問3：研究者のキャリア形成は、公平、透明、魅力的ですか？

・はい	13	9.4%
・いいえ	126	90.6%
計	139	100.0%

設問4：アカデミアのジョブに応募する場合に何を優先しますか？

・仕事内容	69	54.3%
・待遇（給与、福利厚生）	37	29.1%
・勤務地	19	15.0%
・その他	2	1.6%
計	127	100.0%

設問 5-1：(40 代以下の方のみ回答してください) 30 代後半から 40 代のキャリア支援は必要ですか？

・ はい	96	91.4%
・ いいえ	9	8.6%
計	105	100.0%

設問 5-2：(設問 5-1 で「はい」の方のみ回答してください) それはどのようなものですか？

・ 卓越のミドルエイジ版	24	26.4%
・ 就活支援・インターンのようなもの	31	34.1%
・ 行政職員、中高教員などの中途採用枠の拡大	29	31.9%
・ その他	7	7.7%
計	91	100.0%

設問 6：アカデミアのジョブについて、任期なしのポジションが少ない現状をどう思いますか？

・ 行政、大学は努力してポジションを増やすべき	71	56.3%
・ 企業にももっと採用を増やしてもらいたい	35	27.8%
・ ベンチャーなどの自活支援を充実させるべき	14	11.1%
・ その他	6	4.8%
計	126	100.0%

設問 7：(企業就職に興味のある方のみ回答してください) 企業に就職する場合の不安点は？

・ 業務の内容	32	36.8%
・ これまでのキャリアが活かされるか	39	44.8%
・ 人間関係、職場環境	9	10.3%
・ その他	7	8.0%
計	87	100.0%

コメント一覧 (第二部)

No	ハンドルネーム	コメント
1	TCN	大学ごとに、民間の奨学金などへの応募に関する情報格差が激しいことも問題だと思います。(例：そもそも存在を知らない、大学ホームページに紹介がない、事務や教員からのサポートがない、そもそも誰も存在を知らない、など。。。)
2	みや	どんな道を選んでも、楽な道はないということですね。
3	ひろ	現在企業にいるが、博士号も取得しているので、アカデミアに戻る選択肢も大きく開かれると、色々キャリア形成を考えられるので、うれしい。
4	企業の人	企業で博士号を取得したが、キャリアパスにはほとんどメリットはなかった。給与も仕事も変化なし。強いてメリットを言えば海外派遣に行きやすくなるくらい。
5	修士	ポストクと製薬会社で状況はどう変わりましたか？働き方の自由度や満足度など。
6	Yuki.N	研究に限らず、ライフイベントよりもキャリアを優先せざるを得ない状況になった結果が、この少子化なのではないでしょうか。
7	薬学ドクター	結局キャリアとライフイベントどちらも捨てきれないということですよ。
8	MO	キャリア忙しすぎてライフイベントが起こらない。
9	一般男性唐澤	キャリアを選択しましたが、今後恋人や配偶者ができるならば迷わずライフイベントを優先します。
10	Kk	アカデミックが不安定と感じるのは特に 30 代の年取や任期の問題があるのでは
11	m	男女で差がありそう
12	学部生	ライフイベントとキャリアをできれば両立したいが、実際自分が両立できるとは思えないです
13	****	家庭と、自分の研究への興味や感心との両立をどのようにすれば良いのか分からない。
14	薬学ドクター	魅力的かは個人の感性なので置いておいて、少なくとも公平でも透明でもないですよ。公募を出してもその前の段階で決まってるでしょう。

No	ハンドルネーム	コメント
15	普通のひと	第一部もそうでしたが、パネリストの皆さんは（苦勞されながらも）常勤の成功者の方が多いようですので、今後は、今現在困っている博士課程の学生や任期付の方などもパネリストに加えてはかがすか？
16	みや	女性はキャリアを優先すると、どうしてもライフイベントがある程度犠牲になるのが現状なのかな…。
17	Ad	年取以外にも企業より社会保障の部分がアカデミックで弱い部分かというイメージがあります。
18	TBU	「仕事内容」とは研究だけではないです。いわゆるFランの大学では、教育のdutyが重すぎます
19	zxc	落ち着いて研究に専念出来るだけの安定性は、必要不可欠。
20	J	経歴を聞くといまのポストにいるのは知り合いの研究者の方に声をかけていただいたからというものが多いイメージ
21	PI004	夫婦の場合、どちらかが何某らを我慢する必要があるのが悩ましい…
22	a	博士課程です。企業研究員は全て当てはまります。アカデミアには殆ど魅力を感じません。
23	ああ	結婚して家族が配偶者のみならば配偶者の理解を得られるかどうかという問題だが、子供が出来た場合が大変そう
24	たにし	配偶者とコミュニケーションがしっかりとれてるかではないでしょうか。両立してる人はそこ頑張ってると思います。
25	進路	ドクター修了の時点で27、その後の収入も不安定というイメージがあると、男ですが結婚できるのだろうかとは感じます
26	30代の研究者	出産、子育て、介護などライフイベントを考えるとどうしても安定したキャリアを優先して考えてしまう。キャリアアップもしたいが、家族への負担を考えると断念せざるを得ないこともあると思う。両立のためにはどうすればいいのか？
27	N	日本における職の流動性の低さは問題だと思う。日本全体の転職に対する意識、企業側の改革も必要ではないか。
28	企業の人	企業の方がキャリアとライフイベントを両立しやすい。色々な福利厚生や社内制度が充実している。同僚の理解も得やすい。
29	25歳の修士学生	所属が変わって引っ越し、となると家族を持つのは大変。親が転勤族だっただけに避けたいと思う。それだけに所属をあまり変えたくないです。
30	t	知り合いの先輩研究者は皆、在学中の縁で結婚している。学校を出たらキャリア優先にならざるを得ないのか？
31	SM	上に行く女性研究者が少ないという話がありますが、ライフイベント（例えば子供を産む）を考えると数ヶ月単位で離脱すると一刻を争う研究の世界では厳しいのでは。
32	二児の母	どのような仕事にも言えると思いますが、ライフイベントをおろそかにしては本当の幸福感は得られないのかなと思います。両立のための土壌が成熟することを期待しています。
33	A	結婚即別居という方々を多くみて来ましたので。。私もそうなるかなあと考えています。
34	おやじ	国はもっと育児支援をすべき。15年前にやるべきだった
35	あ	PIが自分がよく知った人材を公募で選ぶのは当たり前。よくわからない人を選ぶわけない。
36	No name	実験してくれるロボットが必要になります。
37	薬学ドクター	僕自身はむしろ教育の方をやらせてもらいたいです。もちろん研究は重要なのは理解していますが。
38	Pm	アカデミックポジションの中にも研究機関と大学で研究以外の雑務の違いも影響するのではないかな？
39	おす	彼女はほしいですけど結婚はしたくないです。
40	う	研究者の配偶者は研究者が多いのですか？
41	D1	ウインドウをすぐ閉じないでください。読めないです。
42	学生	研究以外にボスに振られる仕事（お金の出ない）が多すぎてライブイベントどころじゃない
43	B4	ライブイベントを優先できるかはラボによっても違ってそう
44	Bos taurus	パネリストには運がいい人しかいない、、
45	FF外から失礼します	研究者の人と結婚するのは心が休まる場所がなくなりそうで嫌だ
46	25歳の修士学生	配偶者が会社員の場合、なかなか勤務地を移せないのではないのでしょうか。

No	ハンドルネーム	コメント
47	修士	最近では男性の育児休暇みたいなものが企業では認められてきていますが、この研究職ではどうなのでしょう？理解のある上司であればいいと思うのですが、大学ではあまりそういった方がいない気がします
48	dh	女性限定の公募も、逆男女差別だと思うのは私だけでしょうか
49	No name	状況にもよりますが、余裕がある場合には博士課程の間に出産するのも一つの手かもしれません。
50	Aa	大手企業の福利厚生が充実していることはうらやましい。
51	おやじ	保育所の充実は必須です。卵を産んでから巣作りする鳥はいません。
52	企業です。	企業は社員同士お互い補完しあえるので、プライベートで何かあった時休みが取りやすい。親がアカデミアだが、子供の頃に熱が出た時研究室に連れて行かれたことも。何かよい仕組みがあればいいのと思います。
53	薬学ドクター	うちのラボの教授と准教は夫婦です。学部内に他にもご夫婦で勤務されてる先生もいらっしゃいます。地方だとともに研究できる大学が国立一つしかないという現実がありますね。
54	Yuki.N	地方の研究室は広そうで羨ましいです。
55	みや	出産したとして、どこに子どもを預けたらいいのか…
56	@	ライフイベントが起こる時期と、留学やポスドクの時期が重なりやすいのが、両立のしにくさの1つの要因と思います。
57	研究者	うちの研究所は産休・育休制度で、女性も男性も休暇をとっています。大学や企業にはそういう休暇制度はないのですか？
58	B	研究者ではない配偶者に対して、仕事の理解をしてもらうためにどのような工夫をしていますか？
59	おやじ	ライフイベントは先送りできないので、そちらが優先！
60	r	知り合い（修士）で、恋人をおいて留学することを躊躇っている人がいて、今後もこのようなことがあるのでは、とってしまいます
61	Yuki.N	第1部で伺ったようなドクターへのチャレンジをして失敗した時のために、30-40代における支援が欲しいです。
62	Q	日本は就職に年齢制限の壁が大きいように思います。
63	薬学ドクター	選択肢にインターンなどがありました。企業の方はアカデミアの研究者を中途採用でとってくれるのでしょうか。取るとしたら、どのようなポジションなのでしょう。
64	一般男性唐澤	研究者として生きていけなくなったら自由に就職できる未来をください。
65	A	1年ほどのサバティカル（ゆっくり道を考え準備する期間）があれば。
66	24歳修士学生	妻が研究職です。企業の研究者なので、移動や任期がなくてありがたいです。
67	q	相方と子どもを十分養えるならばなんでも。
68	匿名	40代前後であれば支援なく、自らの力で切り開けないと、結局その先で困る。サイエンス力よりも政治力が必要になる。
69	y	少子化なんだから、ポジション増やせるとは思えない
70	6	任期なしポストはゼロにしたほうがよい。おなじところに居続けると良くないことが増えてくる。
71	k	少子化でこれから大学もどんどん減っていくなかで、採用枠を増やすのは現実的でないと思う。
72	任期	任期なしだとだらけてしまいそう
73	博士持ち	自分は研究者に向いていると思いますか？研究者になりたい、と、研究者になる、というのは全く異なるものだと思います。
74	m	任期があると思いついた研究ができないように思う
75	SM	行政には私立高校を無料化したり、有象無象の大学の学費を軽くするくらいなら、研究のポジションを増やしていただきたい。
76	C	ポジションを増やすと、割り当てられる研究費が削減されて、活発に研究出来ないというデメリットもあるように思います。
77	Yuki.N	アカデミアのポストはやっぱりコネで決まるのでしょうか？
78	TCN	PI（管理職）になりたいと言われると迷う。かつて憧れた研究者像は、雑誌の編集部に例えるなら「企画をバンバン出すエース記者」のような存在であって、「雑誌の編集長」では無かった気がする。PIになるよりは、自分が「この人」と見込んだ上司（メンター）について、実力をフルに使って仕事をしたい。

No	ハンドルネーム	コメント
79	25歳の修士学生	任期があると次が心配だけど、任期つきが増えると、その枠があくまで新規参入の椅子が狭められてしまうのが。。。
80	おやじ	日本は先進国で研究費の伸びは最低。大学の予算も減り続けています。困った。
81	Dm	任期付きのプレッシャーは研究不正を助長するというイメージがある
82	博士	うちの准教授は任期なくなって頑張らなくなりました。。。
83	(_)	行政「努力してい(ることにしてい)ます。」
84	Yuki.N	ポストが変わっても同じ研究をできますか？
85	企業の人	企業は任期はないけど、プロジェクトで成果が出なければすぐに、他のプロジェクトへ異動になる。長期視野に立った研究はなかなかしにくい。
86	dh	任期なしでも、だらけている人もいれば、頑張っている人もいます。全部が全部、任期なしもどうかと思う
87	Z	日本企業の新卒一括採用文化は職の流動性の低さの一因だと思う。
88	(*´ω`*)	任期ナシだとだらけるので、任期をいままでより長くすればいいと思う。
89	おやじ	若い人の任期は10年にすべきでしょう。
90	い	任期って大体何年ぐらいなんですか(無知ですみません)
91	Enola	「日本からノーベル賞授賞者はもう出ない」という人や著書が増えている。任期制の増加や短期決戦の課題解決型研究費で長期的な研究ができなくなっているからと。
92	薬学ドクター	正直上の世代が優遇されて、下の世代が冷遇されてるようになってしまっています。これからさらに研究職に割かれる国家予算は少なくなっていきそうですし。
93	Dm	若いひとは業績やノウハウに乏しいので若い人30代は任期を長くして50代以上は逆に業績、ノウハウがあるので任期つきには
94	No name	生物が関わる研究は、基本的に一区切りするのに時間がかかります。任期はあってもいいですが、研究期間のスパンを考慮することは可能でしょうか？
95	た	頑張れば、結果がでなくてもいいの!?
96	65	聞きたいです
97	修士学生	研究の計画を立てれるから時間を自由に使える、と言う意見がありましたが、ボス側の意見である気がします。実際にはない気がします
98	SM	今日本の研究室はお金がないところが多いですよ。お金があれば、手間と時間をお金で買って自分の時間を作ることも出来るかもしれませんが。パネリストの方が言っているのは現実的ではないですね。
99	Yuki.N	コネがあって、次のポジションが決まっているのであれば、落ち着いて研究ができるのでしょうか。
100	任期	任期あり(無限に更新可、但しヤバい奴は切る)、ぐらいいいと思う
101	TH	任期が無くても継続的な研究費獲得の問題で、長期的なテーマは難しい。
102	おやじ	博士号は可能性を広げますね。
103	D	政府の高齢者の学び直し推進に向けた予算、若手に向けて割り当てて欲しい。
104	ぼ	PIのみなさんは結局サバイバーなので、お話を聞いても生存バイアスなんじゃないかと思ってしまう。
105	よし	前向きに!前へ!前へ!(^_^)/
106	Enola	任期なしでも業績がなければ首を切れる制度にはできないのでしょうか？
107	25歳の修士学生	博士号取得者の就職率があがっているのが、企業側がスキルを求めて積極的にとっているのか、学生側がポストがなくて流れていったのか、数字からではわからない。
108	オ	明るい部分でなく厳しい部分こそ取り組むべき点なのに、そこを楽観視したら企画の意味薄くないですか？
109	Yuki.N	若い人に歩み寄ってくださる方もいらっしゃるということがわかりました。若い身としても頑張りたいと思います。
110	博士持ち	ライフサイエンスの未来に幸あれ!
111	おやじ	これから!これから!頑張らましよう。